



2018年9月15日発行



今回の紙面から（ページと内容）

被災された方の会費免除のお知らせ	1
会長挨拶	1
第36回大会のお知らせ	2
第12回国際春季フォーラムのご案内	4
終身会員の登録申請について	4
理事会より	4
編集委員会より	5
大会運営委員会より	6
広報委員会より	6
学会賞委員会より	6
日本英語学会2017年度会計報告	7
日本英語学会2018年度予算計画	7
言語系学会連合について	8
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会について	9
事務局より	9

被災された方の会費免除のお知らせ

大阪北部地震及び西日本豪雨により被害を受けた皆様、日本英語学会よりお見舞い申し上げます。

日本英語学会では大阪北部地震及び西日本豪雨により被害を受けた会員に対し、2018年度の会費を免除いたします。大阪北部地震及び西日本豪雨による被害を理由とする申請であれば、申請者の居住地は問いません。また、会員ご自身の被災だけでなく、会員が生計を支援している方や会員の生計を支援されている方が被災された場合も対象となります。なお、今年度入会される方についても、該当される方は2018年度の会費を免除いたします。

免除を希望される方は、学会ウェブサイトの「各種手続き・お問い合わせ」(<http://elsj.jp/inquiries/>)にあるファイルをダウンロードしてご記入の上、学会事務局までメールに添付してお送りください。

＊申請期間は「2018年12月31日」までといたします。

＊申請時において本年度の会費が納入済みの場合は、次年度の会費に充当させていただきます。

＊既に今年度の会費を納入されていて、特に返金をご希望される場合は、上記のファイルにその旨をご記入ください。

＊本ニューズレターの原稿を準備している段階で、台風21号と北海道の地震と、大きな災害が続いて起こりました。被災された会員の皆様にはお見舞い申し上げます。会費免除につきましては、これらの災害等も対象にできるよう検討しておりますので、しばらくお待ちください。

会長挨拶

会長 伊藤 たかね

昨年から検討を続けてきたいくつかの案件について、ご報告致します。若手・中堅の学会員にとってさらに魅力のある学会にすること、評議員の先生方にこれまで以上に学会の活性化に貢献していただくこと、運営体制を「維持可能」なものにすることなどを念頭において議論して参りました。

・評議員会の活性化：現在、評議員は110名、全会員が1274名ですので、約10%の会員に評議員をお願いしていることになり、「近く」におられる会員を代表していただくに十分な比率であると考えています。評議員会は大会前日に年1回しか開催できませんが、より積極的に評議員の先生方に学会運営にかかわっていただきたと考え、評議員会では決定事項の報告だけでなく、重要事項についてご意見を伺う機会を作るようにしました。また、会長選挙制度や寄付金の使途を決めるワーキンググループには、理事の先生方の他に評議員の先生方にも入っていただきました（メンバーとなっていた先生方にはこの場を借りてお礼申し上げます）。今後は、事案によってはメールで評議員のご意見を伺うことも検討したいと思います。また、次項で報告するように会長選挙の方法を変更し、理事選挙に加えて会長選挙も評議員を選挙権者とするのと致しますので、これまで以上に学会の意思決定にも直接的に参加していただくこととなります。

・会長選挙制度の変更・副会長制度の発足：副会長の職を新たに作り、会長候補者として選出された者がまず1年副会長の職に就き、その後2年会

長をつとめ、その後さらに1年副会長をつとめるという形で、会長の任期を2年1期までとする変更を行います。あわせて、これまで理事が選挙権者となっていました。が、評議員を選挙権者とし、理事経験者（現職を含む）を被選挙権者とする規則改正も行います。学会運営の継続性を保ちながら、維持可能な形で事務局を構成できる態勢を目指した変更です。

・前々号と前号でご報告したとおり、2件のまとまった額のご寄付を頂いておりましたが、以下のように使途を決定致しました。

(1) 中島平三先生からのご寄付：若手の研究支援ということを主眼に、学生会員が本学会の大会および国際春季フォーラムで発表する場合に、その支援として1件につき1万円を支給することとします。なお、中島先生のご意向で個人名は寄付金の名称に入れないこととし、「学生会員発表助成金」として今後継続的に会員等からの寄付を受け入れる予定です。

(2) 「市河賞」関係者からのご寄付：名称を「市河三喜研究助成金」とし、英語学分野のすぐれた著書に対する顕彰という市河賞の趣旨を活かし、現行の「日本英語学会賞（著書）」に、この助成金から「副賞 5万円」を授与することとします。

こうした決定は、会員の研究活動の場として、学会がこれまで以上に有効に機能することを願ったことです。多くの会員の皆様が積極的に学会活動に参加して下さるよう、改めてお願いする次第です。

第36回大会のお知らせ

日時：2018年11月24日（土）・25日（日）

場所：横浜国立大学

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1)

日本英語学会第36回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。シンポジウムは第1日の午後と第2日の午後に予定しております。

11月24日（土）

9:30～11:45：ワークショップ

12:00～12:50：総会

13:00～14:55：研究発表

15:15～18:00：公開特別シンポジウム、シンポジウム

18:20～19:50：懇親会

11月25日（日）

9:30～12:10：研究発表

13:10～15:55：公開特別シンポジウム、シンポジウム
今年度は、2件のワークショップ、40件の研究発表と5件のシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。（〔 〕内は司会者、（ ）内は講師と題目を示します。）

A. “Language Contact and English Functional Items” [Akiko Nagano] (Ryuichi Hotta “Language-Internal and External Factors in the Growth of the s-Plural Formation in the History of English”, Jesús Fernández-Domínguez “The Rise and Fall of Morpholexical Structures and the Influence from English”, Hiroko Wakamatsu “How Is the English Volitional Modal *Let’s* Borrowed into Japanese?”, Akiko Nagano “Three Distinctions in Grammatical Borrowing”)

B. 「名詞句をめぐる拡張の諸相」[前川貴史] (金澤俊吾「英語における名詞句の反復に見られる意味的特徴について」、藤正明「動的な構文拡張の基盤としての名詞句：付加的不変化詞から等位接続詞へ」、前川貴史「英語の限定詞と名詞の統語的關係：特殊と一般」、中澤和夫「潜伏名詞句の意味論と統語論をさぐる」)

C. 「異文化理解と多文化共生—ミクロ・マクロアプローチからみる『ことば』の諸問題」(公開) [秦かおり] (秦かおり「異文化理解と多文化共生—在英邦人女性調査からの提案—」、山口征孝「異文化理解と多文化共生—日本在住カナダ人の視点からの提案—」、村田和代「異文化理解と多文化共生—職場談話研究からの提案—」、Julian Chapple “Intercultural Understanding and Multiculturalism: Suggestions from International Education”)

D. 「ツリーバンク開発と言語理論」(公開) [吉本啓] (プラシャント・パルデシ「ツリーバンク開発と言語理論 (趣旨説明)」、吉本啓「言語研究と統語・意味解析情報付きコーパス」、鈴木彩香／窪田悠介／プラシャント・パルデシ「構文検索ツールNPCMJ Explorer」、Alastair Butler “A Unified Interface for Exploring English and Japanese”, Stephen Horn and Alastair Butler “English/Japanese

Contrastive Study Based on Normalization, a Step in the Semantic Processing”)

- E.「言語理論における形態論の「分散」をめぐる諸問題」[大関洋平]（大関洋平「分散形態論の概要」、成田広樹／木村博子「複合語を伴うwh疑問文と短縮応答について」、田川拓海「ゼロ形態とその削減について」、西山國雄「動詞由来複合名詞と複合形容詞について」]

公開特別シンポジウム「異文化理解と多文化共生—ミクロ・マクロアプローチからみる『ことば』の諸問題」、「ツリーバンク開発と言語理論」については、非会員でも無料で参加できます。会員の皆様のお知り合いで関心のありそうな方々にお声がけいただければありがたく存じます。

本大会の詳しい内容につきましては、同封の「大会資料・プログラム」と「ワークショッププログラム」および9月以降日本英語学会ウェブサイトに掲載されます「発表要旨」（ダウンロード可能）をご覧ください。

◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費2,000円をいただき、*Conference Handbook*と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください。ただし24日(土) 午前のワークショップと24日(土)・25日(日) 午後の公開特別シンポジウムは、参加費と名札なしで入室できます。また、24日(土)の受付は11時30分より始まりますので、お早めにお出かけください。

◇ 総会について

24日(土)の12:00より12:50まで総会を開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、学会賞委員会、事務局からの報告ならびに授賞式などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

◇ 懇親会について

24日(土) 18:20より19:50まで、第一食堂「れんが館」において懇親会（会費4,000円、学生3,000円）を催します。是非ご参加ください。

◇ 大会優秀発表賞について

2015年11月開催の第33回大会より、大会優秀発表賞の審査が行われています。これは事前に審査

希望を申請した修士課程（博士課程前期）に在籍中か修士課程修了後10年以内の研究者による発表を審査して表彰するものです。大会終了後に審査結果をまとめ、ウェブサイトおよびニューズレターで受賞者を発表します。

◇ 証明書等の発行について

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、返信用封筒を同封のうえ、下記までご請求ください。書式が定まっている場合には証明印以外の部分を記入したものを送りいただければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2 開拓社内
日本英語学会事務局

◇ 学内食堂・売店の利用時間について

24日(土)・25日(日)の両日とも、第一食堂「れんが館」をご利用いただけます（営業時間は、土曜日がワークショップ終了前後から13:30まで、日曜日が12:00から13:30までとなります）。食堂は本大会のために臨時に営業をお願いしておりますので、採算が取れますよう、特に他の利用者が見込めない日曜日には、積極的なご利用をお願い申し上げます。自動販売機は学会会場にあり、売店についても会場から近いところにコンビニエンスストアが2つあります。

◇ 宿泊先の紹介について

今回の大会のため、22日(木)・23日(金)・24日(土)の宿泊先をJTBと提携してご紹介しています。学会ウェブサイトの新着情報（第36回大会宿泊施設のご案内）もしくは大会情報にあるリンクから予約サイトにお進みください。

◇ バスの増便について

学会期間中は、横浜駅西口発・横浜国立大学行きの無料臨時直通バスを運行いたします。詳細は、10月に学会ウェブサイトに掲載予定です。

◇ 「親と子の部屋」について

今年も大会会場近くに「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。なお、本年は、委託先の規定により未就学児のみの預かりとなっておりますことをご了承ください。利用ご希望の方は同封の「『親と子の部屋』利用案内」をご覧ください。担当の大会運営委員と事務局までご連絡ください。

第12回国際春季フォーラムのご案内

第12回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時：2019年5月11日(土)・12日(日)

場所：聖心女子大学

(〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1)

研究発表とワークショップの募集につきまして、同封の案内をご覧ください。

終身会員の登録申請について

すでに昨年度の『え〜ごがく』でお知らせしていますように、2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、JELS、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料でご参加いただけます。また、すでに現在までに上記の資格を満たしている会員がおられることをふまえ、当面の経過措置として、満56歳から11年以上の会費を納めている場合には終身会員費を減額または免除します。終身会員に関する規定等については、学会ウェブサイト上にある新着情報、またはトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。来年度の登録申し込みは、4月1日から4月25日です。

理事会より

◇ 会長選挙制度の変更・副会長制度の発足

会長選挙制度の変更と副会長の設置が理事会で承認されました。これに伴って、会長の任期は1期2年間となり、この制度は来年度(2019年度)より発足し、会長選挙が行われます。本号の「会長挨拶」でも紹介されていますが、大まかな内容は次の通りです。

・9月から10月に行われる投票によって選出された場合、その翌年度副会長を1年間務め、その翌年度より2年間会長を務める。2年間会長を務めた後、1年間副会長を務める。

・選挙権者：評議員

・被選挙権者：現理事を含む、理事の経験のある評議員

この会長選挙は、来年度9月終わり頃に実施します。

移行期間として、予定通り今年度9月に会長選挙を行い、選出された方は2019年度より2年間会長職を務め、その後、1年間副会長を務めます。同様に移行期間として、伊藤たかね現会長は来年度1年間副会長を務めます。

◇ 新たな「助成金」の創設

本号の「会長挨拶」でも紹介されているように、2種類のご寄付の使途について理事と評議員からなるワーキンググループを作って検討し、7月1日に行われた理事会で2つの助成金の創設が承認されました。

○「学生会員発表助成金」

秋季大会および国際春季フォーラムで、「学生会員」の発表に対し、1件につき1万円を支給する。(本助成金創設による新たな事業)

○「市河三喜研究助成金」

「日本英語学会賞(著書)」の受賞者に授与する副賞(5万円)とする。(これまでは、3万円を学会費から支出)

なお、これら2つの助成金は2019年度から適用されます。詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 会計

2018年7月1日に開催されました第76回理事会において、日本英語学会2017年度収支決算書と2018年度予算計画書が承認されました。

収支決算および予算計画の内容については、このニューズレターの7ページから8ページに掲載されていますのでご覧ください。

◇ 役員の異動

理事(退任)

家入葉子氏、伊藤たかね氏、大室剛志氏、長谷川信子氏、松本曜氏、丸田忠雄氏、以上6名の方が2018年3月31日付けで退任されました。

評議員(退任)

神崎高明氏、田端敏幸氏、平賀正子氏、以上3名の方が2018年3月31日付けで退任されました。

監事(退任)

岡田禎之氏、田中智之氏が2018年3月31日付けで退任されました。

学会賞委員会委員長(退任)

高橋英光氏が2018年3月31日付けで退任されました。

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申

し上げます。

顧問（就任）

前会長の大庭幸男氏が2018年4月1日付けで顧問に就任されました。

理事（新任）

岡田禎之氏、金子義明氏、高橋英光氏、藤田耕司氏、遊佐典昭氏、吉村あき子氏、以上6名の方が2018年4月1日付けで就任されました。

なお、杉岡洋子氏、西岡宣明氏、廣瀬幸生氏、福井直樹氏、鷲尾龍一氏は、理事2期目となります。

評議員（就任）

鎌田浩二氏、唐澤一友氏、川崎典子氏、田中裕幸氏、水口志乃扶氏、以上5名の方が2018年4月1日付けで評議員に就任されました。

監事（就任）

岡崎正男氏、小野尚之氏が2018年4月1日付けで就任されました。任期は2年間です。

学会賞委員長（就任）

杉岡洋子氏が2018年4月1日付けで就任されました。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1274名（6月25日現在）です。内訳は、学生会員33名、通常会員1076名、維持会員108名、海外会員11名、終身会員29名（顧問8名を含む）、賛助会員17団体となっております。

◇ 海外学会との交流について

○本学会は、昨年度よりヨーロッパに拠点を置く ISLE（The International Society for the Linguistics of English）と、相互の大会への参加などの交流を行っています。

この一環として今年7月にロンドンで開催された5th Conference of the International Society for the Linguistics of English (ISLE5) で、廣瀬幸生氏（筑波大学）が企画者となり、金谷優氏（筑波大学）、今野弘章氏（奈良女子大学）、和田尚明氏（筑波大学）が“English and Japanese as Seen from the Three-Tier Model of Language Use”というタイトルでワークショップを行いました。

○ELSOK（The English Linguistic Society of Korea）との交流として、田中秀毅氏（横浜国立大学）が本学会の会員として5月25日（金）に忠北国立大学で開催されたELSOKのSpring Conferenceに出席し、ゲストスピーカーとして研究発表“On English Partitives That Express

the Type-Token Relation”を行いました。

また、5月に行われた第11回国際春季フォーラムでは、ELSOKのHee-Cheol Yoon氏がゲストスピーカーとして研究発表“Adnominal Adjectives and Definite Marking in Old English”を行いました。

編集委員会より

◇ 2017年度EL論文賞の決定について

EL 第34巻に掲載され、1次審査通過論文として選定されたArticle 4編（Syntax 4）、Brief Article 2編（Syntax 2）合わせて6編について、第17期編集委員長を含めた6名の最終選考委員により最終審査が行われ、以下の1編が受賞論文として決定しました。

大塚知昇：“Radical Free Merger”（分野：Syntax）

◇ *English Linguistics* 第34巻2号（2018年春号）の刊行について

EL 第34巻2号（春号）が刊行されました。Article 3編、Brief Article 2編、Review 3編が掲載されています。刊行が遅れ会員の皆様には多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第35巻1号（2018年秋号）の刊行予定について

EL 第35巻1号（秋号）は2018年9月刊行予定です。特別企画招聘論文2編、Article 3編、Brief Article 1編、Review 3編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics* 第35巻2号（2019年春号）の応募論文について

2018年4月1日締め切りで投稿された一般論文の総数は10編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 7編（Phonology 1, Syntax 4, Lexical Semantics 1, Cognitive Linguistics 1）、Brief Article 2編（Syntax 2）、Notes and Discussion 1編（Syntax 1）でした。また、「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Article 1編（Syntax 1）、Brief Article 1編（Syntax 1）でした。

以下の表は、懲慥によるReview 6編と第35巻1号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され、第35巻2号に再投稿された論文2編も含めた、第35巻2号の審査状況です（2018年7月31日現在）。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	7	0	6	1	0
BA	2	0	1	0	1
N&D	1	0	0	0	1
RA	0	0	0	0	0
Review	6	4	0	2	0
4ヶ月書き直し					
AR	1	1	0	0	0
BA	1	1	0	0	0
合計	18	6	7	3	2

◇ *English Linguistics* 第36巻1号 (2019年秋号) への投稿について

2019年9月発行予定の*EL* 第36巻1号の応募締め切りは、2018年9月20日(木) 24時(必着)です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2018：特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、*EL* 第36巻の編集に向けて、本年度も「特別企画2018：特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込みの締め切りは、2018年12月15日(土)です。公募案内が学会ウェブサイトに掲載されていますので、ご覧の上、ご応募ください。

大会運営委員会より

◇ 第36回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表には54件の応募があり、審査の結果41件が採用されましたが、うち1件の辞退がありました。よって、研究発表の件数は40件となりました。

◇ 第11回国際春季フォーラム報告

日本英語学会第11回国際春季フォーラムは、2018年5月12日(土)・13日(日)の両日、北海道大学札幌キャンパスにおいて開催されました。今年度のフォーラムでは、国内外からの4名の研究者による招待講演(全体講演)、ELSOKからの1名の招待講演(研究発表)、17件の口頭発表、7件のポスター発表、そして2件のワークショップが行われました。115名の参加者があり、活発な議論が展開されました。フォーラムの運営を支

えてくださった開催校の奥聡先生をはじめとする開催校委員の先生方と学生の方々、島田雅晴実行委員長をはじめ大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。

◇ 国際春季フォーラム優秀発表賞審査結果報告

第9回国際春季フォーラムより、優秀な若手の研究発表者を顕彰する制度として、国際春季フォーラム優秀発表賞が創設されました。受賞者は、応募アブストラクトの査読点による一次審査を経て、フォーラム当日の発表に対する二次審査により決定されます。残念ながら、第11回国際春季フォーラムでは、一次審査の段階で「該当者なし」となりました。

広報委員会より

◇ *EL*バックナンバーのオープンアクセス化について

広報委員会では、刊行後2年以上経過した*EL*のJ-STAGE 3(科学技術情報発信・流通総合システム)でのオープンアクセス化に取り組んでいます。2018年7月末日現在、*EL* 第30巻2号(2013)まで公開されており、現在*EL* 第31巻1号(2014)の作業を進めています。以下のURLをご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

◇ *EL*最新刊 PDF 版の会員向け公開について

2016年2月より*English Linguistics Online*の名称で学会ウェブサイトの以下のURLにて*EL*最新刊のPDF版論文を公開しています。2018年8月上旬に*EL* 第34巻1号・2号の掲載論文がアップロードされました。なお、*EL Online*のPDFへのアクセスには、印刷版*EL*の毎巻2号の裏表紙内側に印刷されるIDとパスワードが必要となります。

http://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

学会賞委員会より

◇ 新人賞と学会賞(論文)の応募状況

2018年度新人賞と学会賞(論文)の応募は4月15日に締め切られました。有資格者である2017年度*EL*論文賞受賞者から、新人賞1件の応募がありました。対象論文は統語論に関する論考です。現在、選考委員会において厳正な審査が行われて

おり、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。なお、学会賞（論文）への応募はありませんでした。

◇ 学会賞（著書）の応募状況

4月15日に締め切られた2018年度学会賞（著書）には1件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は2年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は受理されました。審査領域は、意味論／語用論です。学会賞（著書）は、1次審査と最終審査の2段階で選考され、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

日本英語学会2017年度会計報告

2017年度収支決算書（2018年4月1日現在）が監事（岡崎正男氏、小野尚之氏）による監査を経て、7月1日開催の第76回理事会で承認されました。

日本英語学会2018年度予算計画

以下に記載いたします2018年度予算計画書が7月1日開催の第76回理事会で承認されました。

言語系学会連合について

今年度は、日本語教育学会が運営を担当することになりました。運営委員、監査委員、事務局は以下の通りです。

【運営委員】（任期は2018年4月より1年間）

石井恵理子（委員長、日本語教育学会）、廣瀬幸生（副委員長、日本英語学会）、カイト由利子（全国語学教育学会）、野田尚史（日本言語学会）、森山卓郎（日本語学会）

【監査委員】

クセン オアナ マリア（全国語学教育学会）（学会として2017年4月より2年間担当）、林 徹（日本言語学会）（学会として2018年4月より2年間担当）

【事務局】（任期は2017年4月より1年間）

山内博之（事務局長、日本語教育学会）、奥山好絵（事務局、日本語教育学会）

7月16日に日本語教育学会事務局会議室で運営委員会が開催され、昨年度の活動と決算案、今年度の活動計画案と予算案等について審議が行われ、すべて承認されました。

日本英語学会は2019年度に開催する公開特別シンポジウムを担当することになっています。テーマは「ことばは現実をどう捉えるか—ことばの対照研究のおもしろさ—」で、言語系の4学会から

4名の講師を招く予定で計画を進めています。

連合に加盟している学会の活動予定が、英語学会の大会予定も含めて、言語系学会連合ホームページの「加入学会カレンダー」に掲載されていますのでご活用ください。

<http://www.nacos.com/gengoren/index.html>

今年度の公開特別シンポジウムは、日本語教育学会担当で開催されます。詳細が決まりましたら、上記の学会連合ホームページに掲載される予定です。

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)について

この連絡会は日本学術会議との連携の下に2017年5月に人文社会科学系の学協会が参加する連絡組織として発足しました。自然科学系の分野では2002年から同様の連絡会が発足して活発に活動していますが、GEAHSSでも、学協会におけるジェンダー平等に関するグッド・プラクティスの共有、学協会におけるジェンダー統計に関する調査・公表・分析、シンポジウム開催などを中心に活動し、教育・研究環境におけるジェンダー平等の推進を目指しています(<https://geahssoffice.wixsite.com/geahss>)。日本英語学会は、2017年度より正式にGEAHSSに加盟しています。今後はGEAHSSの活動の案内などを随時学会ウェブサイトで会員に案内して参ります。なお、お願いをELに同封いたしましたとおり、GEAHSSでは9月末締め切りで実態調査を行っておりますので、締め切り間際のお願いで恐縮ですが、是非ご協力くださいますようお願いいたします。

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2018年6月25日現在の会員総数は1274名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入してくださいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ 学生会員登録(継続会員)について

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合

には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。今年度の学生(継続)会員手続きは、4月25日に締め切りました。

手続きの方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 学生会員登録(新規入会)について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、申告期間に関わらず、いつでも学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認ください。

◇ EL、JELSへの論文投稿に関するお願い

EL、JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「JELS 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

ELに関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文のEL掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記してください。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載された研究(の一部)を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用ください。

◇ EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛(elsj-info@kaitakusha.co.jp)にお知らせください。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせください。日本英語学会では、発行後2年以上経過

した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意ください。

◇ **JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い**

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局まで(elsj-info@kaitakusha.co.jp)お申し出ください。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

◇ **EL公費購入のお願い**

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

◇ **電子版投稿・審査体制に関連するお願い**

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力ください。

◇ **連絡先等変更のご連絡のお願い**

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡ください。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ **事務局の新メンバーについて**

本年度4月1日より編集委員会担当書記として板東美智子氏(滋賀大学)が新たに加わって、主にEL第35巻2号に関連する業務を行っています。

編集後記

今年度5月に北海道大学で11回目の国際春季フォーラムが行われました。今年度はELSOKから派遣されたHee-Cheol Yoon氏と4件の招待講演の他、26件の研究発表とポスターセッションが行われました。春、秋の大会を通じて初めての北海道での大会でしたが、懇親会も含めて多くの方にご参加いただき活発な議論が行われました。開催校委員の方々の十全な準備と臨機応変なご対応のおかげで成功裡にフォーラムを終えることができました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

第36回大会は横浜国立大学で行われる予定で、久々の関東地域での開催となります。横浜駅からバスでお越しいただくこととなりますが、学会として臨時バスを借り上げ運行する予定ですので、時刻表については、ウェブサイトでご確認ください。既に開催校委員、大会運営委員の方々が精力的に準備を進めてくださっています。開催日が連休と重なっていることもあり、開催校委員の方々のご協力で宿泊施設も斡旋しており、本学会のウェブサイトからも予約が可能です。美しい景観と伝統的な建物に加え、近代的な建築物や多彩なグルメも楽しめる横浜で皆さまにお目にかかれることを楽しみにしております。

秋の大会に向けての準備も大詰めを迎えようとしています。EL第35巻1号も大会前には皆様のお手元にお届けできる段階となっています。会員の皆さまが英語学会を通してより有益な研究活動を行えるよう事務局一同尽力して参りますので、今後ともご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

(T.I.)

2018年9月15日発行

編集・発行	日本英語学会
代表者	伊藤 たかね
発行所	日本英語学会
	http://elsj.jp/

〒113-0023

東京都文京区向丘1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900